

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	市内の方を中心に利用していただき又、話の合う仲間ができるように部屋分けにも工夫している。	○ 地域の方々とふれあいながら、利用者が馴染みやすいように家庭的な雰囲気の中ですごせるような工夫をしている。 (趣味や談話のできる場提供など)
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常において一人ひとりが意欲的に過ごせるように、個別に細かいケアを行っている。	○ 意欲のない方にもゆっくりと元気に生活してもらえるように生活歴を生かしつつ、より係わりをもっていっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域で暮らしていくことをかけた理念を入居時に説明し、日々の取り組みを家族会やお便りで報告し意見交換している。	○ 行事に参加してもらいながら家族や地域の人々に協力を得ることで利用者も喜んでもらっている。 アンケートをとったりしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時には家族や職員が必ず付添い、スムーズに近隣の方と話せるよう援助したり、挨拶をしている。	○ 外を散歩したり、買い物の希望などがあれば近くの店に行ったりしているが日常的なつき合いはない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動には参加することが少ない。ボランティア(踊りの方)に行事には着ていただいている。	○ なかなか老人会、自治会へは係わっていない。機会があれば行事に参加していただき、利用者の活動を披露する場をつくりたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	無料デイサービス体験を実施している。 福祉有償運送を実施している。(市内中心)	○	家族や利用者からの意見や暮らしぶりを参考にしていきたい。高齢者が生き生きと過ごせるよう施設の催しに参加してもらいたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理念をふまえて日々の取り組んでいるか見直し、自己と第三者の評価を活かせるよう運営推進会議を開き話し合っている。	○	いろいろな職員も参加することで具体的な内容の話を出して意見を取り入れ改善出来るよう話したい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の反省点をカンファレンスで話し合い、次回に生かす事でサービス向上を図っている。	○	サービス内容や取り組みに興味を持ってもらうような会を作りたい。(なごんだ雰囲気のもとで)
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催されているグループホーム事業者連絡会に二ヶ月に一回参加し、具体的な取り組みの意見交換を行っている。	○	研修会にもいろいろな職員が参加して報告を持ち帰りケアに生かしていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人権擁護などについて議論する場を持ち、それぞれが学び意見交換する中でその人らしい生活の具体的な話をしている。	○	必要であれば、家族にも参加してもらう機会を持ちながら施設での取り組みを理解してもらいたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の施設連絡会において職員が参加し、施設において報告をしている。施設内においても学習会をしている。	○	民生員と協力をしていきたい。 学習会を開きたい。 日頃から、家族等と係わりを持ち取り組みについて話している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する時は十分な説明を行い、口頭や文章で説明し、話し合いをしている。</p>	○	<p>家族や利用者の身のなって話をしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より利用者とは会話する中で利用者の意見に耳を傾けたい。</p>	○	<p>利用者の想いを引き出せるように係わっていききたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月一回利用者一人一人に生活の状況、身体的な事など報告書を送付している。管理可能な方には財布をもってもらっている。</p>	○	<p>家族の立場に立った内容で便りを送るようにしたい。不安を持たれることのないよう、担当や決まった人が連絡をとっている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年二回設け、積極的に意見や不安など話し合っている。</p>	○	<p>家族が話しやすいように工夫したい。 (苦情受付設置間の立場のアドバイザー設置など)</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見を十分に聞き、皆で話をして決める姿勢が大切であると思う。</p>	○	<p>すぐ諦めないで方法を考えていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の要望に答えるため、利用者の状態に合わせて人員配置を行い勤務体制を取っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の立場に立った職員交代を行っている。少ない現状では時折移動があるが顔見知りの方が対応している。	○	申し送りをきっちりと行っている。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修セミナー等参加している。研修終了後は報告書を提出し、会議などで発表し職員の質の向上に努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの方と情報交換を二ヶ月に一回行っている。相談内容を事前に知らせ合う。 (グループホーム連絡協議会)	○	他施設との交流、参加ができるよう機会を増やす。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務状態により参加しにくい、気の合ったもの同士がそれぞれカラオケや食事に行くなどストレス解消に努めている。	○	食事会、その他の機会を設け職員全員参加できるように考案し実行したい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の受講の推進や個々の意見を聞く体制を取り、各々の仕事に対する思いを聞く機会を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時には必ず家族や本人から希望される事を伺っている。本人の思いに副ったケアに取り組んでいる。</p>	○	<p>信頼関係を築けるよう相手の立場に立って話をするようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が入居者の面接時職員は生活の様子を家族と話し合い、家族と本人の希望を取り入れている。</p>	○	<p>話しにくい相談事があれば記載してもらったりして工夫したい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の訴えを聞きながら必要となっている事柄を話し合い適したサービスについて情報を伝えている。</p>	○	<p>多くの目で話し合って支援していきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>生活ぶりにおいては職員はしっかり把握に努め、安心して生活を送れる雰囲気づくりを心掛けている。</p>	○	<p>必要であれば、家族も含め相談してよりよくサービスが受けられるよう工夫していきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常において利用者と話をしたり家事などを共に行っている中で教わり興味を持つことで学んだり出来ている。</p>	○	<p>利用者一人一人が活躍できる場を作れるよう職員が引き出してあげたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の誕生会には参加していただき共に祝っている。受診にもできるだけ付添いをお願いしている。	○	そのような機会を増やしたい。(敬老会など)
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	細かいことでも連絡をとりあっている。利用者に興味をもってもらえるよう日々の暮らしを伝えるようにしている。	○	利用者との家族の想いをしっかりと受けとめていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方などの面会があれば来てもらっている。	○	久しぶりに会うことで、お互いが不快にならないように職員が見守っていくようにしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	台所で調理の下ごしらえ、洗い物など分担しその人らしい関係作りに取り組んでいる。	○	職員は利用者の行動を把握し、見守り声かけをさりげなく行っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームではそのような例がない。	○	必要とする方には、話をして係わっていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの希望と想いを尋ねてケアプランをつくり、日常生活にそれを取入れるよう努め、訴えの出来ない方にはその方のペースに合わせて配慮している。</p>	<p>○</p> <p>意思の伝えにくい人には職員全員や家族の方の意見も参考にしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族、本人から今までの生活歴など聞き入れケアカンファレンスを開きケアプランを作成しプランにそってケアを行っている。</p>	<p>○</p> <p>新しい情報があれば共有して細かなことでも家族や利用者からの話をきいて活かしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>様子観察しながらその他に合ったケアに取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>職員はいろいろな職種の方も参加して話し合い、ケアプランに活かしている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスには係わっている職員が参加し、本人の身になって話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>家族への報告とともに、意見もあれば面会や他の方法でも聞きける機会をもうけたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況の変化があれば早めにケアカンファレンスを行ないケアについてよく話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>家族と連絡を密にとり計画を新しくするのを早目に取りかかき、じっくりと話し合いたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人記録に記入し変化があればケアカンファレンスを行ない、ケアプランの作成をしている。	○	関係職員が全員意見が述べられるよう取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	デイサービス等を利用している人で体調が悪い時には空き室で休んでもらい職員が対応した。	○	多機能性を活かせるよう職員確保をしていきたいが難しい現状がある。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	防災訓練、あったか相談員の方との話、運営についての話しあう会を開いている。	○	民生委員などとの協力は日頃からは行っていない。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	入居、退居時や、訪問調査、見学などには話し合いながら協力し合っている。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	協働はあまりできていないと感じる。家族の意向があり、必要であれば係わってきたい。	○	具体的に職員は権利擁護などについて係わっていないと思う。そのようなことも取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回、協力医院にて往診してもらっている。緊急な時には対応してもらえる協力医院があり、安心してもらえる配慮をしている。	○	利用者の要望を受けて職員は話し合い、医療を適切に受けられるよう日頃から連絡を取り合っている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科医と連携を保ち、いつでも相談できる体制ができている。	○	分からないことがあればノートに記しながら相談や利用者の情報を共有しながらかかわっている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	心身の変化や異常発生時に看護師や協力医院に相談できるよう確保している。協力医院には月二回往診していただき利用者の健康管理に充分配慮している。	○	利用者が安心できるような声かけや対応を心掛けている。細かなことでも報告していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と共にホームが医療機関と早期から退院計画作りを相談しています。家族の希望を聞き、又入院先の病院と相談を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医院との密接な関係が安心できるような方法を十分に相談し、職員皆で話し合うようにしている。	○	職員が方針をしっかり把握し一丸となって取り組めるよう話し合う機会を設けていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃より家族と話す機会を持ち、今後のおおまかな話はしている。	○	準備や検討しなければならないことをあげ、さらに検討していきたい。話し合う機会の確保。職員も把握していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の所へ移る際には安心して暮らせるよう情報や暮らし方をしっかりと話し合うようにしている。本人から希望がきけない場合は、その方の身になって生活する上での不安など職員や家族が考えるようにしている。</p>	○	<p>利用者の想いや様子を把握した人が中心となり話を進めていくようにしたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人に対する記録やメモは人前に放置しないようにしている。職員は常に入居者に対し尊厳のある姿で接するように心掛けている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>家族や本人の希望に合わせ、ケアプラン作成にも基いてケアに取り組んでいる。</p>	○	<p>利用者の希望に答えている買い物同行で行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりにあったケアプランを作成し本人、家族の希望要望に答えその人に合った生活を支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容には希望に応じて支援を行っている。馴染みの店がある方にはご家族の付き添いをお願いしています。月一回利用者の好みに合わせて美容師にいただいています。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんに出来る人には調理の下ごしらえ、味付け、盛り付けまで一緒に行って、食事のときにはお話ししながら同じものを一緒に食べている。	○	バイキング、誕生日会等の継続。月曜と木曜の昼食メニューまかないメニューし利用者の希望も尋ね好みのものが提供できるよう努めている。一緒に同じ者を食べている。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人より希望があれば買い物支援し、おやつを食べてもらっている。他者に悪い影響のないよう職員は様子をみながら統一した対応をしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗を防ぐため個々のパターンに合わせて誘導をおこなっている。利用者さんに合わせてさり気なく声かけ誘導しています。個々の素振りをつかんで排泄支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人ゆったりと入浴できる様に配慮し、洗身、洗髪など出来るだけ自分でしてもらい必要に応じて介助している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝起きれない人には少し早く休んでもらったり、その人に合った睡眠パターンを把握しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さんのできる事を把握し毎月交代で家事、役割分担を作り意欲、楽しみにつなげている。	○	家族との外出に向けての支援

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	<p>状況によっては興奮されることもあるので、職員が独断で連絡をとらないようにしている。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		<p>出来る限りいろんな人に来てもらえるよう支援している。</p>
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>拘束はせずに、その人らしさを考え常に見守っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方が外に出て行きそうな雰囲気を感じたら止めるのではなく一緒について行くなど安全に配慮し自由な暮らしを支える様にしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	就業時には必ず巡回と利用者さんの様子観察、夜間の巡視、安全確認し安心して生活して頂ける配慮を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	定期的に記録している。 薬や調理器具はカギのかかっている所へ保管し安全に気をつけている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した時は即適切な対応後で報告書を作成。会議を持ち事故防止につなげる。職員に細心の注意を払うよう伝える。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアル作成しており適切な行動が取れる様にしている。随時マニュアルの見直しをしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対して防火マニュアルを作成している。消火器、スプリンクラー等の設備も整備している。防火訓練は年2回実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の様子を把握した職員が家族等に安心してもらえるよう暮らし振りや体調など細かなことも報告している。又、職員の取り組みを説明し、リスクについてもその都度話をしている。	○	家族と共に医師などにも相談して少しでもリスクを取り除けるよう対応していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕とにバイタル測定を行い変化に気付いた時は家族に報告すると共に協力医院で対応依頼している。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握するため看護師を交えて月一回勉強会をしている。利用者に副作用がある時は医師に連絡をして指示に従っている。また、家族にも報告しています。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の確認をし記録しています。便秘予防のため繊維の多い食材、乳製品などもメニューに加えるようにしている。 水分摂取にも気をつけている。 リズム体操も行い、便秘改善に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは入居者任せにしないで、声かけし一人で出来ない人には誘導し介助を行っている。食後には必ずうがいをしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を元に行い、食事の少ない人には医師の指示に従い栄養補給を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては家族の同意を得て、入居者全員に予防接種をうけていただいています。その他感染症については勉強会をし知識を得ている。手洗い、うがいを励行し感染症の予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	三日分ずつ食料を買い入れ、出来るだけ新鮮な食材を使用しています。調理前には必ず手を清潔にして始めています。又、調理器具は使用后必ず消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の色とりどりの花を植えている。分かりやすいように大きな看板を掲げている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは大きな音はなるべく避けて、ゆっくりとした生活の流れが保てるよう声かけのタイミングや声の大きさ、ライト、温度の調整に配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間が遅れる人に対して別のテーブルで食べてもらうよう声かけをしたり、淋しくないよう見守る。一人ひとりの身になって見守っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>淋しそうにされている時には様子を見ながら声かけし、リビングへ誘っている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>利用者にたずねたり、様子を観察している。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>細かなところをケアできるよう一人ひとりに合わせたペースで係わるようにしている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>トイレのある所に表札を大きく書くなど工夫している。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>利用者が興味を持てるよう安全な方法を考えていきたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・出来るだけ、家族の協力のもとで利用者によりよい係わりをもちたいと思っています。家族と話す機会を多く持っている。外出や外泊の希望があれば相談の場を持ち、家族と利用者が安心、安全にできるように援助している。
- ・何ができることや趣味を活かせるよう工夫し援助している。